

## 図書館オリエンテーション「メディアを使いわける」

筑波大学附属駒場高校 1 年

澤田英輔（司書教諭）

加藤志保・岩崎春子（司書）

### 1. 単元を考えた経緯

通常の図書館オリエンテーションは 20 分ほどしかなく、図書館にあるデータベースの口頭説明で終わってしまうため、ただのその場限りのもので終わってしまう可能性が大きかった。そこで、司書教諭の澤田が高校 1 年の教科（国語）担当者になったことを機会に、もう少し充実したオリエンテーションのあり方について、司書教諭と司書で最初から検討し、試行した。

### 2. 単元の目標と基本的な組み立て

高校生向けのオリエンテーションでは、今後レポート作成の機会が増えていくことから、図書館内外のメディアの活用方法について考察する機会を作ることを目標とした。その際に注意したのは、「インターネットは信頼できない、本を調べなさい」というような短絡的な指導をしないこと、それぞれのメディアの特性と利用法を、少しでも実際に体験してもらって考えてもらうことである。

授業は、「インターネット」「本」「新聞（データベース含む）」の三つの代表的なメディアをとりあげ、資料を調べる際の使いわけ方法についてグループで討議・調査して発表してもらう形式にした。

### 3. 指導の経過（全 3 時間）

#### 【1 時間目】

まず、ウィキペディアを批判する記事とウィキペディアを擁護する記事を読み、「なぜ学校の教師はレポートを書く時にウィキペディアを使わないように言うのか」「その批判は、本当にインターネットにだけあてはまることなのか」「結局、メディアを使って調べる時に注意すべきことは何なのか」という問いをたてて、その問いについてディスカッションした。次いで、生徒を 3 人～4 人ずつの計 12 グループにわけ、「レポート作成課題において、本・新聞・インターネットをどのように使い分ければより良いレポートが作成できるかを、具体例とともに報告する」という課題を与えた。

## 【2時間目】

前時に引き続き、グループごとの作業。司書教諭は、各グループの様子をシェアし、難航しているグループに助言を与えてまわった。司書は、生徒からのレファレンス依頼に対応した。2時間目の終了時まで各グループでホワイトボードにまとめを作成し、写真にとって保存した。

高1国語総合（現代文）

### メディアを使い分ける ②

#### 課題の確認

レポート作成課題において、以下の3種類のメディアをどのように使い分ければより良いレポートが作成できるかを、具体例とともに、次の授業でグループごとにホワイトボードで報告する。

- ①「本（辞書・事典類のデータベース含む）」
- ②「インターネット（ウィキペディア含む）」
- ③「新聞（新聞データベース含む）」

#### まとめる時の注意点

・ボードは縦に使う。 ・班番号を書く。 ・具体例に沿って書く。 ・完成したら澤田へ

1組1班 例：捕鯨 ①本では、  ②インターネットでは、  ③新聞では、	2組2班 どのタイミングで使うべき？ (例) ①本  ②インターネット  ③新聞	3組3班 向くテーマ、向かないテーマ ①本  ②インターネット  ③新聞
---	---	--

上はオーソドックスに並べた例ですが、ビジュアルを工夫しても**OK**。

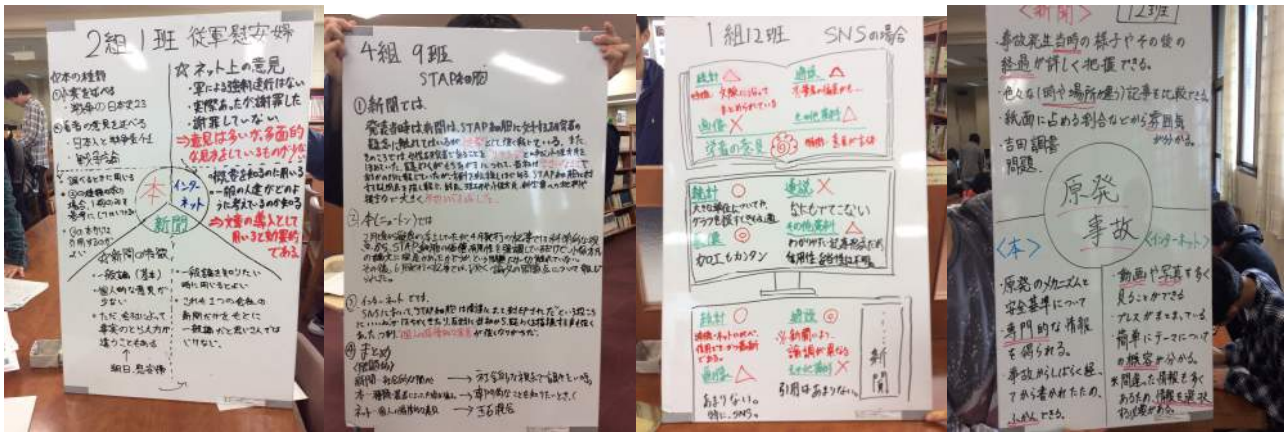
#### ■早く終わった班は…

「ボードには盛り込めなかった、ちょっとした発見／お役立ち情報」を集めます！

**URL** <http://enq-maker.com/3Ydxsap>

- ・**URL** はコンピュータースペースの「教員フォルダ→国語科→澤田」にあるのでコピーして下さい。
- ・ささいな情報でもいいので、ぜひ書きこんで下さい。共有して、全員で見られるようにします。

△ 授業で配付したプリント



### 【3時間目】

全12のグループを図書館と隣接するコンピューター室の3つの場所にわけ、それぞれ4班ずつで前回までの時間にまとめた内容について3分で発表した。その後は、各場所での代表班を選出し、別の場所にいた生徒たちに向けて再度発表し、良い発表をシェアした。

